

【普及マニュアル】

特 用 林 産

竹 材

帯状伐採による効率的な放置竹林の整備について

令和 7 年 3 月

鹿児島県森林技術総合センター

帯状伐採による効率的な放置竹林の整備について

放置された竹林では、枯竹が絡み合い、竹の本数も多いため、枯竹処理に多くの時間がかかることが右図のとおりわかっています。

そこで、放置竹林を整備する時に、時間や労力をかけたくない場合や竹林面積が広い場合、作業道が十分に整備されていない場合、伐採した竹材を利用したい場合などに効率的に伐採するためのポイントを紹介します。



ポイント①：7～10m 幅の帯状伐採を行う！

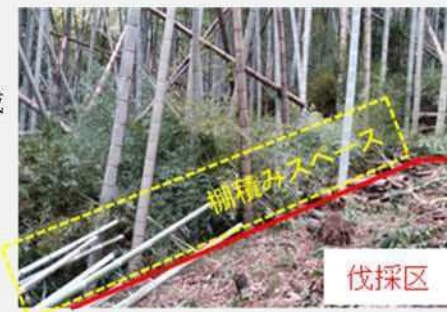
- ・7～10m 幅の帯状伐採は、抜き伐り伐採より労働生産性が1.1～1.5 倍高い結果でした。
- ・5m 幅の帯状伐採は、抜き伐り伐採と同程度の労働生産性でした。
- ・伐採後の10m幅の帯状伐採は、抜き伐り伐採と同数程度のたけのこを発生させ、新竹の胸高直径も1～2cm 小径化しますが、4年目には伐採前の直径に戻っていました。

棚 積 み ス ペ ー ス	全 伐	棚 積 み ス ペ ー ス	全 伐	棚 積 み ス ペ ー ス
3～5 m	7～10 m	3～5 m	7～10 m	3～5 m

効率的な帯状伐採の配置

ポイント②：伐採区の両脇3mを棚積みスペースに！

- ・伐採区の両脇3～5mを枯竹と枝条の棚積みスペースとして活用することで、枯竹や枝条を処理する時間短縮や労力軽減になりました。
- ・たけのこ生産林へと移行する場合は、棚積みスペースの解消も考える必要があります。



ポイント③：枝払い本数は下方から4本まで！

- ・稈末口径5cmまで枝払いした場合に比べて、枝払い本数を下方から4本までで止めることで、竹材生産量は立竹1本当たり4kg 少なくなりますが、造材作業効率が1本あたり47秒速くなることで、結果的に造材生産性は1時間あたり425kg から446kg になり、21kg 増加しました。

